

特定非営利活動法人そよかぜ

2022年(令和4年)度

期間 2022年(令和4年)4月1日～2023年(令和5年)3月31日

事業報告

(1) 組織全体に関するまとめ

2020年初頭から、「新型コロナウイルス感染症」が世界に蔓延し、2023年5月初旬まで、日本中の全ての方・支援を必要とされる方の生活までもが制限され、私たちが行っている介護の業種さえ、支援が制限される時期がありました。その3年間に日本全体で、事業を継続することが困難になり廃業に追い込まれた介護事業所もあり、支援を必要とされる方やご家族が社会の中で心身ともに孤独になってしまう現象が多くありました。

そよかぜは、利用者の方をはじめ、多くの関係者の方のご協力のもと、現時点において、コロナ禍の影響を最小限に抑えることが出来ています。利用者の方々、ヘルパーさん、職員、関係する方々皆様に感謝いたします。

前回の総会では、2022年度の目標として、「コロナ禍などの急な変化にも対応し、ヘルパーの雇用を継続することで、経営を安定させ、利用者に安心して利用していただけることを重視する」と掲げました。

その結果として、新型コロナウイルス感染症は当初の想定以上に長期化しましたが、引き続き感染症対策を徹底し、職員とヘルパーが抗原検査を毎週実施するなど、体調管理を行うことで、新型コロナウイルス感染症が事業に与える影響を抑え、安定した経営を維持することができました。新規ヘルパーも6名採用し、時給の増加も実現しています。これにより、利用者の皆様に安心してサービスを提供し続けることができました。

収入増目標の達成

2022年度の収入目標「収入500万円増の計画」を超える600万円の増収を達成しました。ヘルパーの時給増や一時金の支給等の処遇改善にも注力しつつ、収支としても170万円の黒字決算を達成しました。ただし、今後も「事業安定化・危機管理対策の充実」という目標のため、年々収入を上げていくことが必要であると考えており、2023年度も更なる事業の安定化と事業拡大を目指して進んでいきます。

新型コロナウイルス感染症への対策と影響

新型コロナウイルス感染症対策については、これまでと同様にマスクの着用、ゴム手袋や消毒液の設置、抗原検査などの体調管理を継続しました。また、事務所ではリモートワーク体制や出勤時間のずらしによる密を避けた対策を行いました。ヘルパーや利用者の方がコロナ陽性や濃厚接触者になるなど、感染者が増加する時期もありましたが、働く側だけでなく、利用者やご家族、関わる全ての方の協力もあり支援に大きな影響を及ぼすことなく過ごすことができました。

政府が3月に「マスクの着用判断を個人に委ねる」と発表した中、そよかぜでは居宅内での支援時にはマスクの着用を継続し、外出支援に関しては、利用者全員のご希望を伺いました。多くの方が「密でない場所であれば、ヘルパーに任せる」と言って頂き、世の中も人の心も少しずつ安心に向かっていることを感じました。

しかしながら、全ての方の不安や心配が解消されたわけではなく、環境や体調、障害などの状況によって「自分もヘルパーもマスクを外す判断はできない」という方もいらっしゃいました。そこで、一律に対応を決めるのではなく、利用者の方それぞれのお気持ちを尊重し、共に考えていくことを大切にしました。

登録ヘルパーの雇用拡大への取り組み

事業の安定化、拡大には、そよかぜを理解し共に働いてくれる仲間、ヘルパーの存在は欠かせません。2021年度末から、ヘルパーの時給アップや公的加算を利用した処遇改善などの取り組みを強化し、新規ヘルパーの募集に更に力を入れています。2022年度は、インターネットの求人サイトを活用することで6名の新規雇用に繋がりました。また、ヘルパーの負担を減らすため、記録や引き継ぎなどを効率よく行うために、書類の電子化を進めました。そうすることで、多くのスタッフの効率化や管理体制の強化に繋がりました。

ヘルパーの仕事を希望するけど、無資格の応募者に対しては、資格取得の負担を減らすための補助も行っています。

現状のそよかぜの職員・ヘルパーの男女構成比として、女性職員及び女性ヘルパーが少なく、女性利用者への支援体制が不足していることを認識しており、そのための施策を検討中です。

イベントの開催と繋がり

人と人との繋がりを何より大切に考える私たちとしては、昨年度のうちにイベントやヘルパー交流会等の再開を是非叶えたいと願っていましたが、揺れ動くコロナ禍の状況により計画しようとしては断念することを繰り返し、開催には至りませんでした。しかし利用者の方の生活変化など課題を共有し、ヘルパーとも可能な限り個別に話をする機会を設けることに務めて参りました。

また、未だ利用が再開できない方とも、お誕生日カードやグリーティングカードの送付、お電話、訪問などで寄り添って参りました。「そよかぜを利用して良かった」「そよかぜのようなサポートの厚い事業所で働いて良かった」と言って頂ける幸せ、利用者の方が新しいヘルパーと新しい関係を作り、双方が笑顔で活動されている姿を見られる幸せを感じながら、コロナ禍でも多くの方と明るい気持ちを忘れることなく助けあって過ごすことができました。

2023年度からは、世の中の様子も人も大きく変わっていくことでしょう。決して油断せず、感染症対策を行いながら、これまで「コロナ禍が落ち着いたらやりたかったこと」を、皆さんと思い切り楽しんで叶えていきたいと思えます。イベントを開催し、笑顔で皆さんと集い、共にそよかぜの将来や夢を語り合いたいと思っています。

【会員・利用者・登録ヘルパー数 一覧】

カッコ内数字は前年度からの増減

登録ヘルパー数は常勤職員を除いた数

そよかぜ会員数	常勤職員数	登録ヘルパー数
正会員 37 名(+2)名	男性 3 名(±0)名	男性 20 名(+3)名
賛助会員 15 名(+1)名	女性 2 名(±0)名	女性 6 名(+2)名
合計 52 名(+3)名	合計 5 名(±0)名	合計 26 名(+5)名

利用契約者数		
総合支援法	自費派遣サービス(自主)	介護保険法
男性 27 名(-1)名	男性 7 名(±0)名	男性 3 名(±0)名
女性 15 名(±0)名	女性 13 名(±0)名	女性 2 名(±0)名
合計 42 名(-1)名	合計 20 名(±0)名	合計 5 名(±0)名
利用者契約数合計	延べ 67 名(-1)名	実人数 53 名(±0)名

2023年3月31日現在

(2)理事会のまとめ

平均毎月1回、計13回理事会を開催しました。

2022年度 理事会開催日	
2022年 5月24日(火曜)	2022年 12月23日(金曜)
2022年 6月24日(金曜)	2023年 1月27日(金曜)
2022年 7月22日(金曜)	2023年 2月24日(金曜)
2022年 8月26日(金曜)	2023年 3月24日(金曜)
2022年 9月30日(金曜)	2023年 4月28日(金曜)
2022年 10月21日(金曜)	2023年 5月12日(金曜)
2022年 11月25日(金曜)	

(3)各事業に関するまとめ

【各事業サービス別 派遣時間数結果】

	2022年度 実績		2022年度 計画	参考)2021年度 実績	
	人数	時間 計画比 前年実績比		人数	時間
① 障害福祉 サービス :居宅介護	18名	1,931.0時間 計画比 87.4% 前年実績比 91.4%	2,210.0時間	17名	2,112.0時間
:重度訪問介護	5名	5,812.50時間 計画比 100.6% 前年実績比 120.2%	5,780.0時間	5名	4,835.0時間
② 地域生活支援 :移動支援	33名	3,128.5時間 計画比 105.7% 前年実績比 114.3%	2,960.0時間	32名	2,738.0時間
③ 自費派遣 サービス (自主)	20名	339.0時間 計画比 130.4% 前年実績比 184.7%	260.0時間	20名	183.5時間
④ 介護保険 :訪問介護	5名	1,119.50時間 計画比 78.3% 前年実績比 119.3%	1,430.0時間	5名	938.5時間
計	実人数 53名	12,330.50時間 計画比 97.6% 前年実績比 114.1%	12,640.0時間	実人数 52名	10,807.0時間

・派遣実績時間について

2022年度の派遣実績時間は、全体としては期初の計画時間には達しませんでした。前年実績と比較すると1,523時間増(114.1%)と大幅な拡大が叶っており、決算としては170万円の黒字決算とすることができました。

黒字決算の大きな要因としては、重度訪問介護を利用されている利用者様のニーズに応えられたことや、コロナが落ち着いていた期間に、長時間の余暇外出などの提案や潜在的なニーズに沿った支援を提供できたことが挙げられます。

計画時間に達しなかった原因としては、新型コロナウイルスの影響が想定より長引き、派遣を控え、コロナ罹患による派遣キャンセルが多発した時期があったこと、通年に渡りサービス利用を再開出来なかった利用者様がいたことが挙げられます。

慢性的なヘルパー不足のため、職員の介助稼働率が極めて高く、職員の残業時間は例年以上となりました。また昨年度から引き続き課題であった、平日最も多い夕方からのニーズ、土日祝祭日の余暇外出等の支援への拡大には、お応えできるには至りませんでした。

①障害福祉サービス事業(障害者総合支援法:居宅介護・重度訪問介護)

障害者総合支援法に基づき、障害のある方の日常生活上必要な居宅介護、重度訪問介護を行いました。

2022年度の重度訪問介護は、深夜帯の介助が増え、前年実績比120.2%と大きく増加。居宅介護はコロナ禍での利用キャンセルも影響し、前年実績比91.4%となりました。

新型コロナウイルスによる影響でまだ利用を再開できていない方もいらっしゃいますが、多くの利用者様がコロナウイルス以前の生活スタイルを取り戻しつつあります。また、生活の基盤が安定したことで広い視野で生活を見直す時間を作り、今後の生活についての展望を持たれた方もいらっしゃいました。

ご家族の高齢化など、利用者の方の環境変化も常に課題はあり、その都度、ともに考え、工夫したり対応をご提案するなど、寄り添って参りました。

日々変わりゆく利用者様のニーズに寄り添い、今後も支援を継続してまいります。

②地域生活支援事業(障害者総合支援法:移動支援)

障害者総合支援法に基づき、障害のある方の日常生活上必要な移動支援を行いました。

2022年度は新型コロナウイルスの外出規制が緩和され余暇外出の選択肢が戻りつつある年でした。その影響で前年実績比114.3%と大きく増加しています。

感染予防には注意を払い、利用者様の安全かつ充実感を重視した支援を行いました。

2020年より続いた外出規制や感染の不安により利用者の皆さんは想像以上に自粛されており、規制が緩和されたことで皆様のやりたいことや行きたい場所等の希望が表面化したと感じております。その都度希望を伺い、相談を重ね、制限がある中でも工夫して楽しく過ごせる内容をご提案するなど、利用者様のニーズに沿って外出支援を行うことができました。

③自費派遣サービス事業(自主事業)

障害者総合支援法の利用が困難な障害のある方の日常生活上必要な介助援助などを行いました。

公的制度を受給していない方の支援や、公的制度の受給以上のニーズにお応えしました。調理、入浴、外出など様々な目的がありましたが、主に施設入所中の方の余暇外出のご希望が高いサービスです。入所中の方の外出支援はまだほとんど再開が叶っていませんが、一か所の施設が再開判断に至りました。そういった背景もあり、前年度実績比184.7%と大きく増加しました。

ご利用ニーズが増加したことも大変大きな喜びでしたが、施設入所の方の余暇外出再開時には、様々なことに気付かされました。3年ぶりにヘルパーとの外出が叶った方、それをきっかけにご実家への帰省などに繋がった方、皆さん言葉にならない喜びを感じていらっしゃいました。

「会える」ということがどれほど重要なことか再度学ばされました。また、まだ外出解禁にならない施設でも、家族面会の機会に職員が同席させて頂ける場を提供して頂き、僅かな時間でもお会いすることが出来ました。

④介護保険事業：訪問介護

介護保険法に基づき、65歳以上の方の日常生活上必要な介護を行いました。

介護保険事業はケアマネジャー作成のプラン(訪問計画)に基づいて行われ、コロナ禍であっても欠くことの出来ない介助です。昨年度も感染予防対策を徹底し、継続して行いました。利用者の方の生活変化、健康状態、心身の状態を見逃さず、必要に応じ介護計画の内容の適正化についても提案をしました。

ケアマネジャー・行政機関と積極的な連携に努めました。

利用者の方が65歳になられ障害福祉サービスから介護保険サービス併用になられ、その変化に戸惑われることにも、丁寧な説明や分かりやすいマニュアル作りなどを行い、利用者の方の立場に立った支援を行いました。65歳になられた方の併用により前年度実績比119.3%でしたが、継続して介護保険事業の拡大を目指して参ります。

(4)その他の報告・諸活動

1 ヘルパー確保の取り組み

これまで同様、多くの利用者の方から今以上の支援拡大のご希望を頂いており、また毎月のように新規ご利用の問合せも頂いております。2022年度も積極的にヘルパー増員のための取り組みを行って参りました。

東京23区内の福祉・医療・保育関係の大学や専門学校に募集ビラを送付し掲示依頼を行いました。問い合わせはありませんでした。また杉並区で行っているガイドヘルパー修了式での事業所紹介参加などもヘルパー獲得には至りませんでした。

これまでの取り組み自体を見直し、無資格の方を含めた人材確保のため、検討チームを立ち上げ、SNS等インターネット媒体の今以上の活用、地域施設でのチラシ掲載などPR等、様々な方法を検討し、可能な限り取り組みを継続しています。特にフェイスブックや求人サイトへ掲載している、利用者の方との楽しい活動の様子の写真はとても好感触です。この取り組みのため、多くの利用者の方が写真撮影、掲載に温かく協力してくださっています。

その結果、求人サイト等を通して2022年度は6名ヘルパーの新規雇用に繋がりました。殆どの方がダブルワーク、トリプルワークで他のお仕事をされていることもあり、記録の記入や引き継ぎなども効率よく、且つ漏れのないように可能な限り電子化をすすめ、一人一人の負担を減らすように取り組みました。そして結果として多くのスタッフの効率化に繋がり、事業所としても管理体制を強化できることに繋がりました。

ヘルパーの時給も年度途中で改善しました。また、介護の資格を持っていない方に対して、資格取得の補助も行っています。ヘルパー資格取得後、そよかぜで3か月ヘルパーとして働いて頂ける場合には、初任者研修、ガイドヘルパー資格、重度訪問従業者研修に対し、資格取得の負担を軽減する補助を行っています。

2 学習会の参加

コロナウイルスの影響で、三密を避けるため、ヘルパーを集める学習会やグループでの研修は行いませんでした。その代わりにヘルパー個別での課題の吸い上げや話をする機会を増やし、きめ細かい対応を行いました。昨年度計画の通り、喀痰吸引利用者への対応のため、職員が基本研修を受講しました。

他、必要に応じ東京都や杉並区による事業所集団指導研修などに参加しました。参加した内容は会議等で情報共有しました。

<内部・外部学習会、研修会等への参加>

日付	内容	主催・講師	参加者
11月29日	外部学習会 「高円寺圏域在宅医療地域ケア会議」 認知症高齢者と家族支援を考える・多職種連携	ケア24高円寺	職員1名
3月22日 3月23日	外部研修 「重度訪問介護従事者養成研修 総合過程」 喀痰吸引基本研修のため	土屋ケアカレッジ	職員1名

③イベント・ヘルパー交流会の開催

昨年度に引き続き、コロナ禍によりイベントや交流会は自粛しました。

④募金箱の設置

障害のある方の活動の支援や、将来のグループホーム事業に向けての資金集めの一環として募金箱「そよかぜ募金BOX」の活動をこれまで行って参りましたが感染予防対策の観点から2022年度は積極的活動を行いませんでした。

⑤会報(通信)発行

会員の方への情報発信を目的として、季刊で約170部の会報を発行しています。関係者には郵送で送付しており、ホームページにも個人情報伏せ状態でコラムなどを公開しています。第48号で表紙ロゴデザインを公募し、第50号から表紙のロゴデザインを新しくしました。

会報は、法人の取り組みを会員の方にも共有して頂くこと、そして情報交換の場となることを主眼に作成されています。2022年度は、「MY TALK」コーナー(関係者の方からの寄稿コーナー)や、あれこれぼーとの「障害者用Suica・PASMO販売スタート」の記事に、反響があったことが印象的でした。記事を読んでメールで感想を寄せて頂いたり、「参考にしてPASMOを買いに行ったよ」と言って頂いたりすることは、とても嬉しく励みになりました。また、広報活動の一環として継続しているグリーティングカードも多くの方に喜んで頂き、支援でお伺いしたときに話題にして頂くこともありました。

<会報の発行>

発行日時	号数	掲載記事	発行数
2022年 6月30日	第51号 夏号	第21回通常総会報告 そよかぜ設立20周年を迎えました 等	173部
2021年 9月28日	第52号 秋号	MY TALK SIDE NOTE 等	164部
2022年 2月11日	第53号 冬号	優しくて 温かい時間 あれこれぼーと 等	169部

⑥事務局会議(事業・事務運営)の開催

毎月1回、計12回、職員と担当理事が参加する事務局会議を開催しました。

総会で承認された計画は、理事会での検討を経て事務局会議により実行に移されます。また、事務局会議から理事会への提案も行われます。

主な議題は、ホームヘルプ事業、事務運営、事業拡大に向けた報告・検討です。昨年度同様、リモート会議として開催しており、職員の密を避けるための取り組みを継続しています。

ホームヘルプ事業に関しては、常に現在の支援が適切かどうか、またどのような提案ができるかなど、積極的な意見交換を行いながら模索しています。

事業拡大に向けた検討については、人員拡大が必要であることから、具体的な求人対策やヘルパーの雇用条件の改善などを積極的に検討し、理事会へ提案しました。

2022年度 事務局合同会議 (ホームヘルプ事業・事務運営・事業拡大にむけた検討)	
2022年 4月15日(金曜)	2022年 10月14日(金曜)
2022年 5月20日(金曜)	2022年 11月18日(金曜)
2022年 6月17日(金曜)	2022年 12月16日(金曜)
2022年 7月15日(金曜)	2023年 1月20日(金曜)
2022年 8月19日(金曜)	2023年 2月17日(金曜)
2022年 9月16日(金曜)	2023年 3月17日(金曜)

2022年(令和4年)度 活動決算書

2022年4月1日～2023年3月31日

収入の部		支出の部		単位 円
科 目	金 額	科 目	金 額	
1. 会員費	99,000	1. 事業費		
2. 寄付金	68,001	(1) 居宅介護事業	25,672,869	
3. 自費派遣サービス(自主)	707,500	(2) 地域生活支援事業	8,201,714	
4. 居宅介護事業		(3) 自費派遣サービス(自主)	584,868	
- 居宅介護	8,773,715	(4) 介護保険事業	4,406,202	
- 重度訪問介護	14,596,641	事業費合計	38,865,653	
5. 処遇改善加算(居宅)		2. 管理費		
- 居宅介護	3,342,695	(1). 人件費		
- 重度訪問介護	4,405,578	職員給与等	4,736,547	
6. 地域生活支援事業	10,002,090	担い手給与等	586,530	
7. 介護保険事業	4,491,882	(2). 法定福利費	443,230	
8. 処遇改善加算(介護)	881,535	(3). 退職金共済掛金	79,480	
9. 雑収入	119,081	(4). 福利厚生費	58,449	
10. 受取利息	144	(5). 交通費 通勤手当	187,050	
		担い手分	47,453	
		(6). 通信費	30,902	
		(7). 慶弔費	0	
		(8). 保険料	21,274	
		(9). 修繕費	0	
		(10). 水光熱費	49,581	
		(11). 印刷費	0	
		(12). 消耗品費	9,130	
		(13). 公租公課	39,068	
		(14). 広告費	80,850	
		(15). 諸会費	0	
		(16). 研修費	28,548	
		(17). 備品費	7,183	
		(18). 企画交流費	2,700	
		(19). 雑費	34,946	
		(20). 顧問料	0	
		(21). 会議費	49,000	
		(22). 事務所家賃	390,240	
		(23). リース料	25,444	
		管理費合計	6,907,605	
		雑損失	0	
		当期支出合計	45,773,258	
		当期収支差額	1,714,604	
		前期繰越収支差額	8,381,969	
当期収入合計	47,487,862	次期繰越収支差額	10,096,573	

貸借対照表

単位 円

資 産	金 額	負債・資本	金 額
<i>流動資産</i>		<i>流動負債</i>	
現金	125,047	預かり金 源泉所得税	▲ 29,199
銀行普通預金 みずほ銀行高井戸特別出張所	1,520,290	預かり金 雇用保険料	37,095
銀行普通預金 みずほ銀行浜田山支店	6,000,122	預かり金 社会保険料	844,049
郵便通常貯金 そよかぜ	365	預かり金 住民税	168,400
労働金庫	4,553,274	預かり金 █████	0
未収金	4,270,638	仮受金	51,000
立替金	0	未払金	0
事務所移転引当預金	0		
郵便振替	595,182		
		流動負債合計	1,071,345
		長期借入金	6,000,000
流動資産合計	17,064,918	借入金合計	6,000,000
<i>固定資産</i>		<i>剰余金</i>	
敷金	98,000	繰り越し剰余金	8,381,969
出資金	5,000	当期剰余金	1,714,604
		剰余金合計	10,096,573
固定資産合計	103,000		
<i>繰延資産</i>			
繰延資産合計	0		
合 計	17,167,918	合 計	17,167,918

2023年3月31日現在

財務諸表の注記

・重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正)

財産目録		単位 円	
科 目	金 額		
I. 資産の部			
現金預金			
現金	125,047		
普通預金 みずほ銀行高井戸特別出張所	1,520,290		
普通預金 みずほ銀行浜田山支店	6,000,122		
郵便通常貯金 そよかぜ	365		
労働金庫	4,553,274		
未収金	4,270,638		
立替金	0		
事務所移転引当預金	0		
郵便振替	595,182		
流動資産合計		17,064,918	
2. 固定資産			
敷金	98,000		
出資金	5,000		
固定資産合計		103,000	
3. 繰延資産			
繰延資産合計	0	0	
資産合計			17,167,918
II 負債の部			
1. 流動負債			
預かり金 源泉所得税	▲ 29,199		
預かり金 雇用保険料	37,095		
預かり金 社会保険料	844,049		
預かり金 住民税	168,400		
預かり金 █████	0		
仮受金	51,000		
未払金	0		
流動負債合計		1,071,345	
2. 固定負債			
長期借入金	6,000,000		
固定負債合計		6,000,000	
負債合計			7,071,345
正味財産の部			10,096,573
			2023年3月31日現在

令和4年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人

そよかぜ

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役名 どちらかに○	(フリガナ)		前事業年度内の 就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)
		氏名			
1	○ 理事・監事	マツオ ミノル	松尾 實	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
2	○ 理事・監事	アリサワ タダシ	有澤 忠	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
3	○ 理事・監事	イワサ ヒデユキ	岩佐 秀行	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
4	○ 理事・監事	イワミ ヒロユキ	岩見 浩幸	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
5	○ 理事・監事	コバヤシ ヒロミ	小林 祐美	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
6	理事・○ 監事	キハラ ススム	木原 勇	令和4年4月 1日 ～ 令和5年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
7	理事・監事			年 月 日 ～ 年 月 日	年 月 日 ～ 年 月 日
8	理事・監事			年 月 日 ～ 年 月 日	年 月 日 ～ 年 月 日
9	理事・監事			年 月 日 ～ 年 月 日	年 月 日 ～ 年 月 日
10	理事・監事			年 月 日 ～ 年 月 日	年 月 日 ～ 年 月 日

社員名簿（社員のうち10人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人 そよかぜ

	氏名	
1	松尾 實	
2	岩佐 秀行	
3	小林 祐美	
4	志村 紀久雄	
5	木原 勇	
6	岩見 浩幸	
7	遮那 美さき	
8	田中 崇	
9	有澤 忠	
10	宮坂 知孝	
11		
12		